



楽聖・服部良一④

地域史研究者  
三善貞司

良一、シツ子のコンビでブギを連発

響き渡ったメロディは今も心を打つ

昭和23年(1948)元OSKスター笠静子は笠置シツ子と芸名を変え、東京日劇の舞台に上がり、良一の作曲した「東京ブギウギ」を熱唱します。良一41歳、シツ子は34歳でした。

舞台狭しとばかり踊り回りながら、まるで動物が吠えるような調子で歌いまくるシツ子に、客席は仰天します。なにしろそれまでの女性歌手たちは、しんみりしたすすり泣くような細かい声で、失恋の痛手などを歌うものでした。ですから誰も聞いたことのないブギに、びっくりしたのはあたり前です。

「東京ブギウギ」はひどい食糧難で腹ペコになり、厭世的な気分でイライラしていた国民たちに、生きる喜び、たくましく生きていくエネルギーを与えます。良一・シツ子のコンビは、続けざまに「ハイハイブギ」「ジャングルブギ」「ホームランブギ」「買物ブギ」「大阪ブギ」等のヒット曲を連発します。なにしろ、

「あなたがほえむときは ラッキーカムカム」

「ホイジャングルで 骨のとけるような恋をした」

「ひとつカンと打ちゃ ホームランブギ」

「チヨットおっさん これなんぼ」

「ホンニソヤソヤナイカ 大阪ブギ」

といった苦しい日常生活とはまったく違和感のある歌詞につけた独特のメロディです。

老人から若者、恋人から赤ん坊までもりもり元気がでてきて、ブギウギを歌いました。日本復興の快い槌音つちねとなって響きわたります。

しかし、日本では稀な底ぬけに明るいエンターティナー(人々を楽しませる芸をする人)といわれた笠置シツ子は、舞台をおりたあと、「楽屋でエイちゃんに抱きついて泣いていた」と、良一は語っています。エイちゃんとはシツ子と吉本頼右えいすけ(吉本せいひのひとり息子)との間に生まれた女の子のことです。

母親せいに引き裂かれたシツ子の心の痛手が、消えることはありませんでした。

現在良一は、3歳年上の古賀政男と双壁の天才作曲家だと評価されています。政男は明治大学在学中にマンドリン倶楽部くらぶを創設、クラブの演奏会を数日後にひかえたある夕暮、新曲をひいて驚かせてやろうと東京小石川の下宿でギターを爪くわびいていたところ、時雨しぐれがわびしい音をたてるのにはっとして、リズム化したのが名曲「影を慕いて」だ、との伝説

のある人物です。「酒は涙か溜息か」「人生の並木道」「湯の町エレジー」「悲しい酒」等は、私も大好きです。

しかし良一と政男では、全く質が異なります。政男のメロディのルーツは、哀調を帯びた朝鮮の伝統的なエレジー（悲歌）です。彼は7つのとき父を失い朝鮮に移住しています。そのおり労働者たちが歌う被圧迫民族のエレジーに、たまらない哀愁の情感をいだいたと語っています。ですから「影を慕いて」は、朝鮮歌謡の基本リズムである三拍子を根底にしており、良一とは違う。彼の原型はアメリカンジャズです。その意味で良一は、優れた音楽感性を持つ音楽家でした。

晩年、良一はかなりきつい思いきった発言を重ねていますが、ふしぎに敵がない。誰も彼の悪口を言わないのです。よほど心のあたたかい人柄だったのでしょうか。レコード大賞を制定、日本作曲家協会会長の職も務めました。

若いころ大阪フィルで本格的にきたえられた良一です。交響曲「ぐんま」のようなクラシックも数多く作曲しています。生涯の作曲総数3千5百といえますから大したものです。

平成5年（1993）没。享年86歳。国民栄誉賞（古賀政男も受賞）を贈られています。

ご子息も有名な作曲家です。

中央区上本町西5丁目に、良一のモニュメント「青い山脈歌碑」が建っています。ここは彼が幼いころ通った東平野小学校の跡地です。そうです、とびきり秀才のかあるちゃん（安井郁<sup>かおる</sup>）。後に東京大学教授。原水禁運動のリーダーとしても著名）と、首席を争った小学校です。

碑は白と黒の御影石<sup>みかげ</sup>を組み合わせた洒落<sup>しやれ</sup>た形で、良一自筆の五線譜が刻まれています。ボタンを押すと、軽快なメロディが流れる仕組みになっていますが、惜しいことに周囲は頑丈なフェンスで囲まれ鍵がかかっており、近付くことはできません。

「青い山脈」は石坂洋次郎の代表的青春小説（昭和22年朝日新聞に連載）が映画化されたときの主題歌で、藤山一郎が歌って大ヒットしました。あの明るい透明なリズムは、封建的な束縛と弾圧から解放された喜びを象徴するもので、今でも無意識にハミングされる方は多いと思います。

ところで同22年に良一は、「ロロンピアから」「大阪復興の歌」を出しています。

大阪復興うれしいじゃないか

バラック建てでも心齋橋にや

赤いネオンの灯がともる…

という歌詞です。ご存知でしょうか？

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

（株）ファッションビジネス・御堂筋新聞